

第2号の発刊にあたり、今回は大津市の特別養護老人ホーム千寿の郷の中嶋正雄所長にお話を伺いました。



特別養護老人ホーム千寿の郷
中嶋正雄 所長

インタビュー
本日は大変お忙しい中お時間をいただきました。ありがとうございます。まず、こちらの施設の特徴について、お聞かせ願います。

中嶋所長
この施設は大変自然に恵まれた環境で、それが一番の特徴です。山あいで春の新緑から紅葉に至るまで緑に囲まれた非常に環境の良いところに建っています。これから暖かくなったら畑もありますし、散歩にも出かけていただきます。外へ出てもらうと車椅子に乗っている方も気分転換になります。

今年の重点目標で何とかやろうと思っているのが個別排泄です。今まで定時交換で集団ケアを行っていましたが、それを利用者さんのパ

ターンに応じて、定時ではなく個別にオムツを替える個別排泄の取り組みを、現在試行的に一部やっています。それと個浴を導入したいと思っています。今は集団ケアで短時間で入ってもらっていますので、もう少しゆったりした気分でお風呂に入ってもらえるようにということですね。移乗をきちっとやらなければならないので、移乗についての技術的な研修を受けてもらって、どんどん増やしていこうと思っています。まず、それをやっていくということとプロジェクトを立ち上げて色々な研究してもらっています。

インタビュー
ケアハウスのご担当者がお花見のことをお話になっていましたが、

中嶋所長
花見には瀬田川沿いへ行きます。利用者さんはリフトカーに乗ってもらって車の中から見てもらったり、瀬田の山手に畑の施設できれいな庭があるのですがそこにも行ったことがあります。お弁当を持って行ったりしましたが、最近は重度化が進んで、なかなか食事までしてもらって秀囲気ではなくなってきました。ケアハウスは今年も花見に行き

ますが、最近は十人程度の参加です。丸六年経ちましたから、お歳を召されて元気がなくなってきたのです。

インタビュー
ケアハウスにも要介護の方がおいでなのですか。

中嶋所長
要支援、要介護入れて七人ほどです。この間の懇談会の時も、部屋の中に閉じこめるのではなく、出来るだけ外に出るようにお話をさせていただきました。そういう意味で花見にも行ってくださいと勧めているのです。

インタビュー
次に、開設以来の喜びと苦労と



千寿の郷 玄関風景

中嶋所長
恥ずかしい話なのですが、私は

元々市の職員で、介護現場のことは余り知らなかったのです。勿論、福祉保健部にもおりましたし、榛原の里等も部署としてはありましたが、

直接介護にあたってはわかりません。現場のことは見ているけれども、本場にこういう施設の施設長になるには、ある程度現場を知っていないと駄目だなということをもの凄く思いました。責任者も経験不足で私も分からないという中、試行錯誤でやっていましたので、現場は大変だったと思います。特養というのは、施設長がリーダーシップをとらないと良くならないと思います。現場に任せておいたらそれで良いというものではないというの、最近つくづく感じています。二三年前から、個別ケアをやらないと駄目だよと盛んに言っていて、特に去年ぐらゐから動き始めて、職員もそれなりにそういうことをしなければという気になってくれているので、これを上手く誘導してきつとしたものにしていかないとと思っています。今後二年の間に個別ケアもやりながら利用者さんに喜んで



敷地内 運動公園

インタビュー
現場のことを知り尽くした人すべてが立派な施設長になれるというわけでもないですし、難しいところもありますね。

所長
難しいです。トップというのは皆を引っ張っていかないといけないし、その気にさせて動かさなければいけない。自分が全部動いてしまつたら空回りします。だから、いかに人を上手く動かすかが大事ですね。職員に、これから何とかしていかないと駄目だという動きが出てきたのが良かったなと思うことです。

インタビュー
個別排泄は、話だけ聞いていますと現場の方にとっては大変に思えますが、実践されている施設のお話

を伺いますと、逆に人手も少なくなくて済む、おむつも節約できるという目に見えて分かる部分が出ています。

中嶋所長
それは節約できますね。集団ケアですと、おむつ交換で時間に追われて大変です。その人のパターンに合わせて交換していたら全部替わなくても良いのだから、本当はそれだけ楽になるのです。今だったら出てようが出ていまいが皆替えてしまっていますし、利用者さんからしたら迷惑な話です。

インタビュー
弊社で開発いたしましたパーソナルケアシステムは、排泄の予測をするためのソフトです。パターンを把握して、昨日どうだったから、おそらく今日もこうであろうという感じで動いていけるわけですが、見えていますと就寝前に一回排泄されて、そのまま朝までお休みです。夜中のおむつの替えは全くいらな

中嶋所長

夜中に定時でおむつを替えますと、出てなかつても起こされるわけです。本当は寝ていたい方がおられるわけです。ましてや寒い真冬の夜

中なんかに変えられたら、あと寝られないですよ。そういう部分でも大事だと思つたのです。そういうことも含めて利用者さんの状態に合った喜んでもらえるケアをしたい、それが一つの狙いです。



デイルーム

インタビュー
介護については個別ケアが目標といつことはよくわかりました。その他の業務で力を入れていらっしゃることはございますか。

中嶋所長
デイサービスの提供時間を昨年からの8に変えたのですが、時間を長くすると利用料も上がるし、何か今までと違うものを出さないといけないのではないかとということ、利用者さんの持つておられる潜在能力をもっと活用しようということになりました。高齢者の介護といえは、させない介護になりがちで

すよね。させない介護をすることによって意欲も低下するし筋力も衰えてだんだん悪くなっていく。だから、生活リハビリをやるということになりまして、出来ることを出来るだけしてもらおうということなんです。職員は何をするかという、それが事故に繋がらないように見守りをし、本心に危なかつたら手を出

す。そつでない限り出来るだけ自分でしてもらおうということなんです。皆で協力して出来ることはやつてもらおうということを今、実践しているのです。それと、普段デイの利用者さんは、余り外に出られないので、昼食に回転すしを食へに行ったり、喫茶店へ行ってみたりと積極的に外へ出て楽しんでもらおうということもやっています。意欲を高めることによつて、今まで出来なかったことも頑張つてもらおうということになります。私たちの感覚で危ないといつことでもしてもらわないと、その方が事故が無くて良いかも知れないが、逆にそれをしてもらうことによつて、普段出来ないと思つている人でも意外と出来ます。生きる意欲を持たせてあげたら人間は全然違つと思つたのです。デイは、そ

いう取り組みをして利用者さんは活性化されていると思います。それを特徴にしようといつことでは、しています。利用者さんには好評です。



デイの店

特養の方でも何でもしてもらおうといつことと、おしぼりや洗濯物たたみ等もしてもらっています。何もさせず、何もすることがないと寂しいし、段々と生きる意欲が無くなります。やはり自立支援が介護の目的だから、自立してもらつた為に、ちょっとでも動いてもらわないといけない。何もしてもらわないで何も動かなかつたら、どんどん衰えてきます。

インタビュー
施設の今後の目標というのは聞かせていただいたのですが、これからの施設の課題といつのはどういふこととお考えですか。

中嶋所長

今は四人部屋が中心ですけど、ユニットケアにしていかなければと思っています。お風呂は今検討していますが、個浴に変えていくことを考えています。それと人材育成です。これが一番難しいです。後継者を育てておかないといけないと思っています。後は、職員の人材育成についても、まだまだ十分ではないので、皆が意欲を持って頑張れるように資質の向上を目指したいと思っています。人材的にはそろってきましたので、それをいかにレベルアップして優秀な人材に育てて個別ケアをきちつとやれるようにということとです。人材育成、後継者の育成それからハード面が今後の課題だと思っています。ただユニットにした時に利用料が高くなりますし、そういうことを考えると全部ユニットが良いのか考えてしまいます。介護報酬をもう少し上げてもらわないと人材確保が出来ません。賃金を上げて人材確保しようと思つと、人数が増えなくても人件費が上がりま

インタビュー

長時間にわたり大変貴重なお話を頂き、ありがとうございます。

